

# 小ギク栽培情報

令和3年産

第3号（5月号②）

気象庁は、5月16日、気象庁から「近畿地方は梅雨入りしたとみられる」との発表がありました。これは平年より21日、昨年より25日早く、統計開始以降最も早い梅雨入りとなります。

今後1カ月～1カ月半程度は曇雨天の日が多くなると考えられます。多湿状態が続くと、さび病や斑点性の病害が発生しやすくなります。できれば天気予報を確認しながら、降雨の前日に農薬を散布するよう心がけてください。

## 1. 病害虫の防除

### さび病の発生に注意しましょう！

- ・上述の通り、病害の発生しやすい天候が続くとみられます。定期的（10日ごと）に農薬散布をお願いします。
- ・昨日、本日の巡回の中で、さび病が発生しているほ場が見られました。ほ場を観察いただき、さび病の発病葉が見つかった場合には、ラリー乳剤等治療効果のある剤を散布してください。  
※次項の表を参照ください。
- ・殺菌剤散布の際には、葉の裏側に薬液がよくかかるように、噴口を上向きにして下から吹き上げるようにして、葉から薬液が滴り落ちるくらいにたっぷりと、かけむらのないように散布してください。

## 2. 排水対策

- ・降雨後あまり間を置かずにほ場を確認し、滞水している場合は排水対策をお願いします。溝が排水口までつながっているか、ほ場外に向かって勾配がついているか等の確認をお願いします。

## 3. 支柱立て、フラワーネット上げ

- ・草丈20cmを超えてきたら、フラワーネットの位置を随時上げていくようにしてください。
- ・畝中間の支柱立てがまだの方は、支柱を1.6～2mの間隔でやや逆ハの字型に立てます。
- ・フラワーネットの高さは、小ギクの草丈で上から1／3程度の位置に合わせていきます。

表 5月下旬～6月中旬の防除ローテーションの例

(小ギク情報第2号掲載の表の再掲+さび病発生時加筆版)

(令和3年4月30日時点での登録のもの)

時期	対象病害虫	薬剤名	使用量・倍率	回数	RACコード
(5月下旬) 成長期②	さび病	ジマンダイセン水和剤	400～600倍	8回	F:M3
	アブラムシ類 アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤	2,000～4,000倍 2,000倍	5回	I:4A
(6月上旬) 成長期③	白さび病 アブラムシ類 アザミウマ類 ハモグリバエ類	ハチハチ乳剤	1,000倍	4回	I:21A F:39
(6月中旬) 成長期④	白さび病 褐斑病 黒斑病	ダコニール1000	1,000倍	6回	F:M5
	アザミウマ類 ハモグリバエ類 ヨトウムシ類 オオタバコガ	アフアーム乳剤	1,000～2,000倍 1,000倍 1,000倍 1,000倍	5回	I:6
★さび病発生時 (治療効果のある剤。いずれか一剤を選んで散布。止まらなかつた場合には剤を変えて再度散布)	白さび病	ラリー乳剤	3,000倍	5回	F:3
	うどんこ病 白さび病 灰色かび病	アフエットフロアブル	2,000倍	3回	F:7
	白さび病	アミスター20フロアブル	2,000倍	5回	F:11
	褐斑病 黒斑病 白さび病	ベンレート水和剤	2,000～3,000倍 2,000～3,000倍 1,000倍	6回	F:1

※農薬の使用に当たっては、必ず薬剤容器ラベルの記載事項を確認し、適正に使用してください。